

# 健康福祉学部 教員一覧

## 教員の専門分野・研究分野の紹介

**看護学科** →p.108

**安達 久美子 教授**  
若年妊娠・出産、思春期の性と健康、ピアカウンセリング、子育て支援

**飯村 直子 教授**  
小児看護学、検査や処置を受ける子どもへの援助、小児科外来における子どもと家族への援助

**勝野 とわ子 教授**  
高齢者看護学、レミニッセンス、QOL、認知症高齢者へのケア方法・ケアシステムの開発、災害看護、研究方法

**河原 加代子 教授**  
地域看護学・在宅看護学、脳血管疾患の予防と地域リハビリテーションケアの看護方法

**木下 正信 教授**  
神経内科学、臨床遺伝学、筋緊張性ジストロフィー1型・Naチャネルopathiesの臨床病態と遺伝子異常

**斉藤 恵美子 教授**  
公衆衛生看護学、地域看護学、コミュニティ・アセスメント

**志白岐 康子 教授**  
看護倫理学、看護管理学、臓器移植看護、終末期医療における看護職者の役割

**猫田 泰敏 教授**  
地域看護活動評価論、保健学、公衆衛生学

**山村 健 教授**  
精神看護学、精神衛生学、臨床心理学

**飯塚 哲子 准教授**  
終末期看護学、レスエデュケーション、健康学習

**石川 陽子 准教授**  
国際看護・保健、看護政策、医療政策

**加藤 星花 准教授**  
小児・思春期精神疾患及び精神保健

**木村 千里 准教授**  
母性看護・助産学、地域母子保健と育児支援、母乳育児支援、疾患をもつ女性のウイメンズヘルス

**古賀 節子 准教授**  
高齢者看護学、看護教育社会学、看護師の熟達と看護教育・看護管理、看護師のAutonomy

**佐藤 政枝 准教授**  
基礎看護学、環境看護学、患者の環境移行及びQOLに関する研究

**清水 準一 准教授**  
在宅看護学、生体からの機器提供者と家族のケア、調査研究方法論

**習田 明裕 准教授**  
基礎看護学（フィジカル・アセスメント）、看護倫理学、看護技術のエビデンス、臓器移植看護

**鈴木 享子 准教授**  
母性看護・助産学、分娩期の産痛対処行動と達成感、乳房ケア技術、産痛対処メカニズム研究、子育て支援途上国での助産活動

**岡部 真美 准教授**  
母性看護・助産学、母子相互作用と乳幼児精神保健

**種吉 啓子 准教授**  
小児看護学、慢性疾患のある子どもとその家族への看護

**福井 里美 准教授**  
成人看護学、がん看護学、慢性期疾患患者への心理社会的支援、緩和ケアの実践知、サポートグループの実践研究

**三浦 里織 准教授**  
がん看護学、がんリハビリテーション看護、がん患者におけるナラティブアプローチへの研究

**村上 好恵 准教授**  
がん看護学、家族性腫瘍の患者及び家族への看護ケアの探究と開発、サイコオンコロジー

**山本 美智代 准教授**  
小児看護学・障害のある子どものきょうだいへの看護、障害のある子どもの家族への看護介入

**青山 美紀子 助教**  
高齢者看護学、災害看護、在宅看護

**池田 真弓 助教**  
母性看護・助産学、周産期のウイメンズヘルス

**笠原 康代 助教**  
基礎看護学

**呉 珠響 助教**  
地域看護学

**三輪 聖恵 助教**  
新卒看護師の職場適応に関する研究

**村田 加奈子 助教**  
在宅看護学

**森田 敦子 助教**  
精神看護学、精神科訪問看護、産業保健に関する研究

**安田 由美 助教**  
小児看護学

**理学療法学科** →p.110

**網本 和 教授**  
脳挫傷による高次神経機能障害の評価と治療について

**池田 誠 教授**  
都市生活で必要な行動能力の修得に関する理学療法技術の研究

**井上 順雄 教授**  
神経生化学、神経再生科学：ES細胞から神経系細胞への分化誘導

**金子 誠喜 教授**  
教育方法及び運動解析に基づいた身体運動・動作機能指導について

**後藤 保正 教授**  
関節滑膜の免疫組織化学的研究と人体各器官の元素を分析

**新田 収 教授**  
人の運動発達及び脳性麻痺における身体・運動学的な特徴について

**柳澤 健 教授**  
ヒトの姿勢及び運動ならびにPNF手法に関する研究

**渡邊 修 教授**  
高次脳機能障害、脳外傷のリハビリテーションの研究

**池田 由美 准教授**  
認知機能と運動に関する研究

**大津 慶子 准教授**  
車イス・シーティング、日常生活活動、運動・動作分析、ユニバーサルデザイン、小児運動発達

**竹井 仁 准教授**  
徒手理学療法技術の研究及び関節運動学の研究

**古川 順光 准教授**  
運動生理学・障害科学

**山田 拓実 准教授**  
呼吸リハビリテーション、高齢者の運動機能、介護予防の研究

**神尾 博代 助教**  
リハビリテーション科学、応用健康科学、教科教育学

**米間 弘展 助教**  
機能的磁気共鳴画像などを用いたヒトの運動に関する研究

**信太 奈美 助教**  
障害者スポーツに関する研究、脊髄損傷のリハビリテーション

**作業療法学科** →p.112

**大嶋 伸雄 教授**  
身体障害の作業療法、認知リハビリテーション、リハビリテーション・マネジメント理論、保健医療福祉専門職連携理論(IPW)・連携教育(IPE)に関する研究

**菊池 吉見 教授**  
認知神経科学、脳機能イメージングに関する研究

**里村 恵子 教授**  
精神障害者の地域リハビリテーションに関する研究

**繁田 雅弘 教授**  
精神医学、認知症及び統合失調症に関する研究

**山田 孝 教授**  
人間作業モデルに関する研究、感覚統合評価法の研究

**渡辺 賢 教授**  
筋内生理学、細胞生理学に関する研究

**伊藤 祐子 准教授**  
発達障害児の作業療法における評価・支援システムの開発に関する研究、感覚統合・遊具・福祉用具に関する研究

**井上 薫 准教授**  
福祉機器の開発及び適応、高齢者の運転能力に関する研究、作業療法教育

**岡牟田 洋美 准教授**  
老年心理学、閉じこもり高齢者に関する研究

**小林 法一 准教授**  
高齢者の地域作業療法に関する研究

**橋本 美芽 准教授**  
住環境整備学、高齢者・障害者の住環境と適用技術に関する研究

**三浦 香織 准教授**  
小児虐待に関する研究、発達障害児に関する研究

**石橋 裕 助教**  
特定高齢者（特に閉じこもり）の作業に関する研究

**川又 寛徳 助教**  
高齢者に対する予防的作業療法に関する研究

**谷村 厚子 助教**  
地域精神保健サービスにおける当事者のニーズ、作業療法の研究

**宮本 礼子 助教**  
非侵襲的脳機能画像計測法を用いたヒトの運動と認知機能の研究

**放射線学科** →p.114

**安部 真治 教授**  
診療画像機器学、医用画像機器の特性向上、品質保証に関する研究

**小倉 泉 教授**  
X線高電圧発生装置の動作特性改善に関する検討及びその高電圧計測

**齋藤 秀敏 教授**  
放射線治療物理、高度放射線治療に関する研究

**篠原 廣行 教授**  
医用画像情報学、核医学・CTによる生体機能解析

**福土 政広 教授**  
核医学検査技術・機器に関する研究と保健物理に関する研究

**八木 一夫 教授**  
医用工学、放射線診断物理学、MRIによる脳神経線維束の描画研究

**大谷 浩樹 准教授**  
放射線診療における線量評価の高精度化及び放射線防護・管理

**加藤 二久 准教授**  
医学物理学、放射線計測学、放射線管理学、医療情報学

**加藤 洋 准教授**  
核的方法による元素分析、放射線防護に関する研究

**関根 紀夫 准教授**  
X線透視画像を用いた「接触・嚥下障害」の特徴抽出に関する研究

**妹尾 淳史 准教授**  
X線撮影技術学、パシエントケア論、生体内情報の可視化

**乳井 嘉之 准教授**  
医用画像情報学、医用画像処理、医用画像の映像化法及び統計解析に関する研究

**眞正 浄光 助教**  
放射線感応素子の開発とそのメカニズムに関する研究、放射線化学

**沼野 智一 助教**  
診療画像技術学、核磁気共鳴画像法

**明上山 温 助教**  
医用画像処理、3次元画像処理、高精度放射線治療技術

# 大学院

Graduate school

- 118 大学院構成について
- 119 人文科学研究科
- 120 社会科学研究科
  - 121 法曹養成専攻（法科大学院）
  - 122 経営学専攻【高度職業人養成プログラム（ビジネススクール）】
- 123 理工学研究科
- 124 都市環境科学研究科
- 125 システムデザイン研究科
- 126 人間健康科学研究科

# 大学院構成について

## 高度な研究へと発展

首都大学東京大学院では、学部で身につけた専門分野での学識を、さらに高度な研究へと発展させ、高度専門家や研究者の育成を目指します。本学ではすべての学部から、大学院への進学が開かれています。

### 学部構成

都市教養学部	人文・社会系	社会学コース
		心理学・教育学コース
		国際文化コース
	法学系	法学コース
		政治学コース
	経営学系	経営学コース
		経済学コース
	理工学系	数理学コース
		物理学コース
		化学コース
生命科学コース		
電気電子工学コース		
都市政策コース(2年次進級時に選択)		

### 大学院構成

人文科学 研究科	社会行動学専攻
	人間科学専攻
	文化基礎論専攻
	文化関係論専攻
社会科学 研究科	法学政治学専攻
	法曹養成専攻(法科大学院)
	経営学専攻[高度職業人養成プログラム(ビジネススクール)]
理工学研究科	数理情報科学専攻
	物理学専攻
	分子物質化学専攻
	生命科学専攻
	電気電子工学専攻
機械工学専攻	

都市環境学部	地理環境コース
	都市基盤環境コース
	建築都市コース
	分子応用化学コース
	自然・文化ツーリズムコース(3年次進級時に選択)

都市環境科学研究科	地理環境科学域
	都市基盤環境科学域
	建築学域
	都市システム科学域
	分子応用化学域
観光科学域	

システムデザイン学部	ヒューマンメカトロニクスシステムコース
	情報通信システムコース
	航空宇宙システム工学コース
	経営システムデザインコース
	インダストリアルアートコース

システムデザイン研究科	ヒューマンメカトロニクスシステム学域
	情報通信システム学域
	航空宇宙システム工学学域
	経営システムデザイン学域
	インダストリアルアート学域

健康福祉学部	看護学科
	理学療法学科
	作業療法学科
	放射線学科

人間健康科学研究科	看護科学域
	理学療法科学域
	作業療法科学域
	放射線科学域
	フロンティアヘルスサイエンス学域
ヘルスプロモーションサイエンス学域	

## 人文科学研究科

南大沢キャンパス



### 異文化理解の観点から学際的研究に取り組み、グローバルな現代社会の課題に挑む

都市問題や社会福祉といった実証的・政策的な研究から社会理論や哲学・思想史の原理的な研究、また東西の歴史研究や文学・文化理論から心理学や脳・言語科学といった文理融合の一翼を担う研究など、幅広い分野における専門研究者や高度職業人の養成に取り組みます。

### 社会行動学専攻

産業、交通、文化などの社会構造と、その変動の歴史的・理論的な解明、また国際化や少子高齢化に伴う社会問題への調査研究と、それを裏づける理論的・歴史的研究に、学際的に取り組む人材養成を目標としています。

- 社会学分野** エスニシティ・ジェンダー・サブカルチャーなどの諸社会問題に、理論的・実証的に接近し問題解決方法を探索しうる社会学研究者等の養成を教育目的としています。
- 社会人類学分野** 社会(文化)人類学の研究者の育成と共に、世界各地の地域社会に関する幅広い知識を有した開発や国際協力分野の専門的職業人養成に注力しています。
- 社会福祉学分野** 社会福祉制度・政策、社会福祉援助技術、社会福祉理論・学説、社会問題などの領域について、専門研究者の養成を中心とした教育を行っています。

### 文化基礎論専攻

哲学・思想、歴史学、考古学、映像文化の諸領域にわたって、時代は古代から現代まで、地域は欧米・アジア・日本の広い範囲に至るまで、総合的に理解する人文学の基礎的知見の習得を目標としています。

- 哲学分野** 哲学(西洋の哲学の全時代)と西洋古典学(古典ギリシア語・ラテン語それ自体及びそれらの言語で書かれた書物全般)の2つの専門領域で成り立っています。
- 歴史・考古学分野** 日本史・東洋史・西洋史・考古学という、地域・方法による個別の研究を行うだけでなく、人類史的な観点から総合的な歴史像の構成を目指します。
- 表象文化論分野** 映画・視覚文化論、言語メディア論、文化表象論を柱とし、「かたち」を対象に、従来の学問領域を横断する研究を目指します。

### 人間科学専攻

心理学、臨床心理学、教育学、言語科学、日本語教育学の各教室からなり、人間の知覚・行動・表現と人間形成のあり方を実験的手法、臨床的研究、理論的・歴史的研究により総合的に探究します。

- 心理学分野** 人間心理の諸側面への研究・教育を行っています。なお「臨床発達心理士」資格のための臨床実習は、この分野に属します。
- 臨床心理学分野** 臨床心理における専門的学習を重視していますが、臨床心理学領域における研究者育成も目指しています。
- 教育学分野** 学校教育だけでなく社会教育も含む広く人間形成に関わる教育的営みの理論的・実践的研究、教育を行います。
- 言語科学分野** 人間が生まれつき持っている言語を獲得する能力及びその生物学的基盤を明らかにする研究に取り組んでいます。
- 日本語教育学分野** 日本語とその教育について様々な視点から研究教育活動を行っています。どの分野でも少人数のゼミできめ細かい指導が受けられます。

### 文化関係論専攻

今日、アジアにおける日本の位置を考える上でも重要なアジアと欧米の諸文化や言語を研究。日本との比較研究を通して、日本・アジア・欧米の文化をより深く理解することを目標としています。

- アジア・日本文化論分野(日本文学)** テキストの包括的な読解を踏まえ、隣接諸語の成果も視野に入れつつ、既成の枠組みにとらわれない研究を目指しています。
- アジア・日本文化論分野(中国文学)** 古典から近現代までの中国語学・中国文学や中国の文化・風俗、朝鮮・ベトナム・東アジアに至るまで幅広い分野をカバーしています。
- 欧米文化論分野(英文学)** イギリスとアメリカの言語文化と文学を教育研究の中心としながらも、アフリカなど英語圏の作家の作品も教育研究の射程に入れています。
- 欧米文化論分野(ドイツ文学)** ドイツ語及びドイツ文化についての包括的な教育・研究を目指し、きめ細かな教育・指導を心がけています。
- 欧米文化論分野(フランス文学)** ギリシア・ローマの文化を継承した西洋文明の中核としての精髓にせまり、既成概念にとらわれない独自の考察を進めるのが目標です。

### 研究者インタビュー



文化関係論専攻 西山 雄二 准教授

共同作業を通じて志を同じくする誰かと共鳴し、知的交流ができることが最高の喜びになる。



研究室では20世紀のフランス思想や文学をテーマとしていて、近年、「哲学と大学」というテーマで若手研究者たちと共同研究に取り組んでいます。19世紀以降の各哲学者の大学論を批判的に考察し、哲学の営みと大学の制度や理念との関係を問い直しています。効率性や収益性が優先される現在の社会的風潮の中、大学固有の理念を構想するにはどうしたらいいか、大学をめぐる原理的考察に立ち返ることを目指しています。

人文学の研究はテキストの読解が主なので個人的な活動になりがちですが、共同作業が不可欠です。志を同じくする誰かと共鳴し、研究を通じた知的交流ができることは最高の喜びだからです。学部までは自分の好みだけで卒業論文を書くことが許されますが、大学院では先行研究を踏まえた上で、客観的な成果が求められます。その分、より専門的な知識と技能に基づいて、「世界」や「人間」というものを幅広く考察することができるのです。



# 社会科学研究所

南大沢キャンパス 晴海キャンパス 新宿サテライトキャンパス

## 21世紀の法的・政治的・経営的研究の核を目指す

国際水準に見合った研究者の育成に取り組むとともに、研究成果を高度専門職業人養成プログラムにも反映させていきます。また双方向の教育を重視し、独創的な研究課題の開発、研究領域相互の学問的交流や最先端の研究情報の共有、プレゼンテーション能力の育成等を進めます。

### 法学政治学専攻

法律学分野と政治学分野とに分かれ、入試、授業、学位で異なります。分野ごとに院生研究室があり、全員に個席が与えられます。授業は教師1人に参加者が平均2~4名の徹底した少人数の演習に加え、月に一度は研究会形式の総合演習が行われます。

- **法律学分野** 広い視野に立って精深な学識を究め、自立して研究活動を行う法学研究者の育成を目指しています。
- **政治学分野** 政治学の方法に関する基礎的な訓練を集中的に行い、高度な専門能力と幅広い視野を備えた政治学研究者の育成を目指しています。

### 経営学専攻

研究者養成プログラムでは、社会的・制度的・歴史的な幅広い視野を持ち、国際的に通用する最先端の領域を切り開くことができる研究者の育成を目指しています。経営学と経済学の広い領域から科目が提供され、高度な研究に取り組むことができます。また、高度専門職業人養成プログラム(ビジネススクール)では、東京都の産業育成、経済の活性化に貢献することによって、国家レベルの産業競争力を強化・発展させていく人材を養成します。

経営学専攻[高度職業人養成プログラム(ビジネススクール)]  
Business School ▶ p.122

### 法曹養成専攻

東京で生ずるさまざまな法的問題・紛争に柔軟に対応できる法律家の養成を目指します。研究者教員による理論的な授業だけでなく、弁護士、検察官、裁判官などの実務家による授業も提供し、理論と実務をバランスよく学ぶことができます。

法曹養成専攻(法科大学院) Law School ▶ p.121

### 社会科学研究所

## 法曹養成専攻(法科大学院) Law School

### 高度な能力を備えた法律家の育成を目指して

グローバル社会の拠点である世界都市・東京では、今日、多様な次元で、複雑に絡み合った、さまざまな問題が生じています。本専攻は、世界都市・東京にふさわしい国際的な水準の研究を法科大学院生に還元し、東京に集中する困難な法的問題に正面から取り組み、新しい時代を切り拓く法曹の養成を目指して設立されました。その基本理念は、個人、企業、国・地方自治体が、協力・共同していく社会を支える、優れた法律家の養成です。社会が生み出すさまざまな法的課題、先端的事象を的確に判断する能力を備え、社会に貢献できる人材の育成を目指します。また公立の法科大学院として、経済的な負担をできる限り軽減し、より多くの人々に法曹界への門戸を開放しています。

#### 首都の法的課題に取り組む

首都であり国際都市である東京を活動の場とする、業務を遂行できる高度な能力を備えた法律家の育成を目指しています。

#### 教員と向き合う少人数教育

少人数教育を行うことを教育理念とし、教員と学生が向き合う双方向的な授業手法を実践しています。

#### 伝統に基づく幅広い教育

前身である東京都立大学が長年蓄積してきた基礎法学、政治学についても幅広く学ぶことができます。

#### 修業年限及びカリキュラム

修業年限	
3年履修課程	法学未修者及び社会人向け
2年履修課程	法学既修者向け

#### 修了に必要な単位数

3年履修課程	93単位
法律基本科目	54単位(必修)
実務基礎科目	6単位(必修)
基礎法学・隣接科目	4単位以上 必修とされる分を除き、25単位以上
展開・先端科目	12単位以上

2年履修課程	67単位
法律基本科目	26単位(必修)
実務基礎科目	6単位(必修)
基礎法学・隣接科目	4単位以上 必修とされる分を除き、25単位以上
展開・先端科目	12単位以上

### 研究者インタビュー



法学政治学専攻 矢崎 淳司 教授

### 自分が関心を持った一つのテーマに忍耐強く取り組んでいく姿勢が必要。

私の研究テーマは企業買収法制に関する研究で、敵対的買収に対する買収防衛策をめぐる法規制、金融証券取引法における公開買付制度や委任状勧誘規制などを中心に、比較法的な観点から研究に取り組んでいます。現段階におけるわが国の企業買収法制は必ずしも十分に整備されているとは言えないため、企業買収の経験豊富な欧米の法制度を参考にして、わが国の企業買収法制のあり方を検討する際に役立つことができればと考えています。

大学院では、学部生の時に習得した基礎的な知識を前提に、自分が特に関心を持ったテーマについて深く掘り下げて研究できるカリキュラムが組まれており、より高度で専門的な知識を身につけることができます。それが大学院で学ぶ大きなメリットだと思います。学生の皆さんには、すべて自分で解決しなければならない苦しさもありますが、流行に左右されることなく、一つのテーマに対して忍耐強く取り組む姿勢で研究にチャレンジして欲しいですね。



社会科学部研究科

## 経営学専攻 [高度職業人養成プログラム (ビジネススクール)] Business School

### 変革・創造の時代の経営戦略を学ぶ

21世紀、さらに情報化社会が進化していく中で、社会構造自体が大きな変革の時代を迎えています。そうした社会を舞台に、活躍していく経営者・管理者・企業者に求められるものとは、経営戦略の構想力と組織や制度の変革能力と高度なリスク管理・ファイナンス能力です。本学のビジネススクールでは、将来、経済界で大きく羽ばたく能力を磨くために、さまざまな角度から、実践力を高める教育を行っています。そして国際的な水準の技術に裏づけされたアイデアを企業に結びつけていく経営システムの確立・発展、組織構造や会計システムを含むさまざまな制度的な枠組みの変革・創造を担う、企業家・経営者・管理者の養成を目標としています。19年度からは文部科学省の大学院教育改革支援プログラムに採択され、国から重点的な財務支援を受けました。

#### 充実のカリキュラム

制度・組織の創造と変革に重点を置いたカリキュラムで、幅広い視野と創造的・戦略的判断力を持った高度職業専門人を養成します。

#### 2つのコア科目群

「経営戦略・組織論」と「金融工学・マネジメントサイエンス」に重点を置き、多彩な科目が提供されています。

#### 働きながら学べる環境

キャンパスは新宿駅から徒歩10分の都庁舎内にあり、授業は平日夜間と土曜日に行い、社会人や学生も受講しやすい環境です。

※経営学専攻の研究者養成科目は南大沢キャンパスで開講。

#### ビジネススクールの修了要件 (AもしくはBを選択)

##### A 博士前期課程 (=修士課程) 共通

1. 2年の在学期間
2. 30単位以上修得
3. 学位論文を提出し、かつ、最終試験を受ける

##### B ビジネススクールに限っての特例

1. 2年の在学期間
2. 36単位以上修得
3. 特定の課題についての研究の成果を提出し、かつ、最終試験を受ける

### 研究者インタビュー

経営学専攻 渡辺 隆裕 教授



学部の「勉強」と大学院の「研究」は違う。大学院は自分で研究し、自分で学問を作る場所。



企業間の価格競争、国家間の外交・貿易問題、経営者と投資家の対立など、企業と企業、国家と国家、個人と個人の2つ以上の行動とその戦略について、あたかも「ゲーム」であるかのようにとらえ、数学で定式化・理論化する研究が、私の専門分野である「ゲーム理論」です。ゲーム理論は数学であり、経済学の基礎理論ですが、すべての社会科学において人間の行動を理解し、予測する上で必要不可欠な理論として、最近ではあらゆる分野で活用され、そ

の範囲は経営戦略から外交問題、ギャンブル必勝法にまで及びます。

大学の学部は幅広い知識を身につけるために勉強するところですが、大学院では一つのことを集中して研究し、深く学んでいきます。論文を作成する過程で「深い専門性」と「論理力」が身につくことが大学院のメリットだと言えます。研究と勉強は違います。大学院はあなたが研究し、あなたが学問を作る場所なのです。

## 理工学研究科

南大沢キャンパス

### 豊かな創造力と積極的な応用力を備えた高度専門家や研究者の育成を目指す

理学及び工学の6つの基幹分野において、体系的・総合的基礎知識の上に立って、課題発見・課題解決力を育成するための教育プログラムを実践しています。隣接分野の履修を可能としたりして、広い視野をもつ独創的な科学者や高度な専門家を育成しています。

### 数理情報科学専攻

代数学・幾何学・解析学・情報科学の各分野の習熟と課題解決型テーマの相互展開と融合を目指し現代数理科学の最先端研究へ誘います。基盤数理科学・広域数理科学・情報数理科学と横断的連携コアカリキュラムをクロスさせて教育・研究を行います。

代数学分野 / 幾何学分野 / 解析学分野 / 情報科学分野  
基盤数理科学分野 / 広域数理科学分野 / 情報数理科学分野

### 物理学専攻

「素粒子宇宙論」、「物性基礎理論」、「粒子宇宙物理」、「物性物理」の4つの研究グループ体制をとり、超ミクロな素粒子から日常的なサイズの物質系、そして超マクロな宇宙までの広範な系を対象として、理論・実験の両面から研究教育を推進しています。

素粒子宇宙論研究グループ / 物性基礎理論研究グループ  
粒子宇宙物理研究グループ / 物性物理研究グループ

### 分子物質化学専攻

基礎化学に立脚した最先端の研究を精力的に遂行すると共に、講義と研究を通して、化学という学問を体系的に学習した研究者を育成することを目指しております。化学を3分野に分類し、これらを体系化させた合理的教育プログラムを実施しております。

無機・分析化学分野 / 有機・生物化学分野 / 物理化学分野

### 生命科学専攻

国際的視野を有し、生命科学・生物学分野の研究者・企画開発者、教育者・経営管理者を養成するため、生命科学の基盤的な分野と先端的な分野の教育・研究をバランスよく推進し、高い研究力のある人材を育成することを第一の目的としています。

### 電気電子工学専攻

電気電子工学分野に関する体系的・総合的知識基盤を持つ創造的な技術者・研究者の育成、及び電気電子工学分野及び理工融合型先端分野における知の創造・体系化・蓄積・発信を基本理念としています。

電気エネルギー・電磁応用(機能評価・応用)分野  
電子材料・デバイス(機能発現)分野 / 電子回路・システム(機能構成)分野

### 機械工学専攻

“ものづくり”の先端技術分野に貢献できる研究開発型の技術者・研究者を養成します。次世代を担う創造的な人材、高度な専門性を有した人材ならびに国際性やリーダーシップを備えた人材の育成を目的としています。

機械構造物性工学分野 / 熱流体工学分野 / 機械システム工学分野

### 研究室インタビュー



機械工学専攻 水沼 博 教授

大学院では新しいことを発見したり、新しいものを創造する喜びが待っている。

私の研究室では流体工学に関するさまざまな研究テーマに挑んでいます。例を挙げると、カーボンナノチューブを分散させた光硬化樹脂のレオロジーと電気的特性、プラズマを利用した流れの制御、添加剤による液体の流動抵抗の低減、食品の嚥下流動と窒息、障害者用の吸い飲みやスプーンなどの開発、乳幼児の虐待防止を目的とした傷害機構(眼底出血)の解明、臓器移植用の臓器灌流装置などで、いずれも省エネや医療・介護の質向上を目指したテーマであり、学

生や他の研究者との共同作業を通して、新しいことを発見したり、新しいものを作るやりがいを実感することが出来ます。

大学院進学を考えているなら、自分のやりたいことをぼんやりとでもいいので早めに見つけることです。それが見つかれば関連したことに興味が出てきて、自分で調べているうちに何が求められているかが分かってきて、自分の進むべき方向がはっきりと見えてくるはずです。





## 都市環境科学研究科

南大沢キャンパス

### 持続して発展する都市を構築し得る 科学体系としての都市環境科学の確立を目指す

都市環境を構成する「人間」「物質」「エネルギー」「情報」「人工物」「自然」の各要素について、観測と解析を基礎に相互作用を明らかにし、任意の空間・時間における予測・設計・制御が可能となる方法論を開発し、メガシティの将来を先導する人材の育成を行います。

都市環境科学専攻

#### 地理環境科学域

過去から現在に至る地理環境と人間のダイナミックな相互関係について、一つの空間スケールで研究するだけでなく、異なる空間スケールで起きている現象相互の関連性の解明を目指します。

都市環境科学専攻

#### 都市基盤環境学域

都市基盤環境工学は、「美しい国土・都市の建設」「安全にして安心出来る生活の構築」「豊かな社会基盤の形成」を目指す工学です。その役割は、社会基盤の構築や維持管理、都市インフラ施設の計画・建設、運用、整備・更新、防災など多岐に渡っています。

都市環境科学専攻

#### 建築学域

「持続可能な社会における安全で快適な建築都市空間を美しく構築する」ための研究の推進及びそれを担う人材育成を目的としています。建築ストックを適切に維持管理しつつ安全・快適・魅力的な建築都市空間を創出していくための研究を行います。

都市環境科学専攻

#### 都市システム科学域

本学域は我が国唯一、「都市科学」の学位を取得することができる大学院です。「都市空間システム」と「都市社会システム」として横断的な位置付け、学際的なアプローチから都市を総合的に極める新しい「都市科学」の創出を目指しています。

都市環境科学専攻

#### 分子応用化学域

人類が、人類を含めた生態系・地球環境と共生しながら、有限な地球資源・エネルギーのもとで持続的に発展していくための基盤となる21世紀の化学を指向し、それに貢献できる資質をもった人材を育成することを目的としています。

都市環境科学専攻

#### 観光科学域

観光計画の企画立案や、地域全体の価値を高めるための総合的なマネジメントを行うことができる観光のリーダー、そしてレンジャー等の自然環境の保護・適正利用を担う先導的・実践的人材を育成します。

### 研究者インタビュー



観光科学域 本保 芳明 教授

大学院は社会的訓練と知的鍛錬の場。  
知的にも精神的にもタフで自立した人材を育成。

私が取り組んでいる観光分野の教育研究活動の成果を社会的に意義あるものにするためには、大学が外部に向かって実践的な活動を行うことが重要です。そのため、産学官連携プロジェクトを研究の中心に据え、旅行業のグローバル人事戦略の研究、観光経営教育の推進と地域の観光政策の評価に取り組んでいます。これがうまく進行すれば、観光政策の改善、観光分野での人材育成、観光産業の高度化などに具体的に貢献できると考えています。

大学院は自分の関心事を深く掘り下げて勉強できる唯一の場であり、また、修士論文の執筆を通して厳しく成果と責任を問われる場でもあります。そういう意味で、社会的訓練と知的鍛錬の場だと思っています。従って、この環境を有効活用できれば、知的にも精神的にもタフで、自立した社会人・研究者としてスタートを切ることができるはずです。ですから、皆さんも大学院の2年間で何か一つ必ず達成するという意気込みで主体的に取り組んでください。



## システムデザイン研究科

日野キャンパス

### 高度な知的社会の構築を目指し、 その基盤を支える高度技術者・研究者を育成

カリキュラムには横断的な研究プロジェクト演習を用意し、異なる専門分野間のコミュニケーション力や実践的な問題解決能力を涵養します。従来の工学分野にとらわれず、数理的・論理的手法から人間的要素をも視野に入れたシステムデザイン学を追究します。

システムデザイン専攻

#### ヒューマンメカトロニクスシステム学域

メカトロニクスの基盤をなす主要な工学を、先端的な工学分野に適用していく方法を学びます。学域を「知的システム制御」、「知的システムデザイン」、「生体システム工学」、「機能デバイス」の4分野に体系化し、学修を進めます。

システムデザイン専攻

#### 情報通信システム学域

情報の獲得・加工・管理のための基盤技術としての「情報システム分野」、情報の円滑な流通を実現するための基盤技術を扱う「通信システム分野」、それら情報通信インフラストラクチャの上に高付加価値の情報処理の実現を目指す「メディア情報処理分野」の教育研究を行います。

システムデザイン専攻

#### 航空宇宙システム工学域

航空機・宇宙機の要素技術やシステム設計技術並びに宇宙環境利用技術の研究教育を行います。課題解決力と豊かな応用力、さらに国際的視野と次世代科学技術の発展にチャレンジするエンジニアリング・マインドを持ち航空宇宙分野などで活躍できる技術者、研究者を養成します。

システムデザイン専攻

#### 経営システムデザイン学域

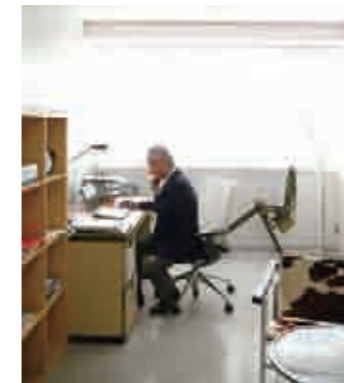
従来の管理技術に加えて工学と経営の融合を考え、特に、人とシステムのインタフェースと経営を取り巻く社会への関心に充実を図り、より総合的な観点からのシステム設計のための教育と研究を実施。人や都市社会の特性に配慮した総合的な観点から経営システムの設計・管理を担う人材を育成することを目指しています。

システムデザイン専攻

#### インダストリアルアート学域

デザインやアートにおける人間と世界を結ぶ技術的・感性的なインタフェースや豊かなコミュニケーションを支えるシステムに関する新しいタイプの創造・研究・実践を通じて、様々な問題解決に向けて創造的に挑む新たな担い手を育成します。

### 研究者インタビュー



インダストリアルアート学域 山下 敏男 教授

学部時代よりも視野を大きく広げることで  
それまで見えなかった事実が見えてくる。

私の研究テーマは「デザインが果たせる役割」です。特にトランスポーター（乗り物）を軸にした研究を通じ、豊かで優しさのある社会づくりに、デザインが貢献できる可能性を模索しています。具体的には次世代環境自動車のデザインですが、屋根にソーラーパネルを配置した「傘車」という日本に適したEV（電気自動車）の開発を進めています。また、コンピューターを駆使した自動車の開発の研究に取り組んでいます。いわゆる、デジタルをデザイン開発に適応し、環境の面からも自動車開発をサポートしようとす

るものです。実現すれば環境に負荷のかからない開発の在り方が構築されます。大学院では、学部時代に疑問に思いつつも追求そびれたこと、あるいは学部で進めていた研究の視野を拡大することができます。それまで見えなかった事実が明確になると同時に、深さを追求し本質により迫ることができるでしょう。ですから、好奇心や向上心、そして常にポジティブな感性を忘れずに、大学院にチャレンジしてほしいですね。新しい社会を創り出すのは君たちなので、多くのことを学び夢を育ててください。



# 人間健康科学研究科

荒川キャンパス 南大沢キャンパス

## 健康に関わるさまざまな分野の高度な専門家や最先端の研究者の育成を目指す

大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行います。幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させていきます。健康に関わるさまざまな分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端研究者」の育成を目指します。

人間健康科学専攻

### 看護科学域

人々の「健康」をテーマとし、看護科学の研究、教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指すことを理念とし、看護科学の探究、高度実践的専門家の育成、看護学の教育者・研究者の育成を行っています。

育成期看護学分野／成熟期看護学分野／広域看護学分野／看護倫理・管理学分野  
専門看護師(CNS)コース(小児看護・在宅看護・高齢者看護)

人間健康科学専攻

### 理学療法科学域

臨床科学技術や、健康・障害に対する理学療法の知識・技術と科学的思考能力を体系的・総合的に学び、専門職の発展に向けて創造的・科学的思考に基づき自律した行動能力を持つ高度実践専門家や教育・研究者の養成を目指します。

身体機能回復理学療法学分野／運動障害分析理学療法学分野  
地域理学療法学分野／先端リハビリテーション科学分野

人間健康科学専攻

### 作業療法科学域

人の心身諸機能と生活環境の両側面から最新の知見を学び、自ら問題を発見し研究開発する科学的な思考と探求力に基づき、保健医療福祉サービス向上のために貢献する行動力を備えた高度実践的専門職及び教育・研究者の育成を目指します。

身体障害作業療法学分野／精神障害作業療法学分野／地域作業療法学分野

人間健康科学専攻

### 放射線科学域

放射線学の専門知識と技術の最新の知見を教授し、創造的かつ科学的思考に基づいた高度放射線専門職の育成及び専門領域における高度な知識、能力を有するのみならず、他領域の研究成果を理解し、先端医療技術を開発できる人材の育成を目指します。

画像診断撮像技術学分野(前期)／核医学検査技術学分野(前期)／放射線治療技術学分野(前期)／医用画像情報学分野(前期)／医用画像診断学分野(前期)／医用電子・放射線計測学分野(前期)／医用放射線技術科学分野(前期)／医用画像情報学分野(後期)／医用画像診断学分野(前期)

人間健康科学専攻

### フロンティアヘルスサイエンス学域

脳機能解析科学分野、神経再生科学分野、臨床神経科学分野、生体運動解析科学分野の4分野で構成します。学際的・基礎科学的な研究・学問領域の高度な研究者・教育者、広い学識と高度な研究能力を有する実践的専門家を養成します。

脳機能解析科学分野／神経再生科学分野／臨床神経科学分野／生体運動解析科学分野

人間健康科学専攻

### ヘルスプロモーションサイエンス学域

運動と栄養の枠組みを超えた融合広領域的分野として、分子・遺伝子・細胞から人への応用までを扱う新しい健康科学・健康増進科学の推進を目的としています。3つの分野で構成され、「未病の領域における健康科学・健康増進」に関する教育・研究を推進します。

適応科学分野／行動科学分野／栄養・食品科学分野

## 研究者インタビュー



作業療法科学域 大嶋 伸雄 教授

学部での学習が一つの通過点であるように大学院も目的達成のためのステップである。

私が取り組んでいる研究テーマは大きく分けて2つあり、1つは脳血管障害者や高次脳機能障害者に対してQOL(生活の質)を重視した新しい作業療法〜リハビリテーションを構築することです。具体的には運動機能と並行して認知機能と精神・心理面に作用する活動を中心に据えた訓練技法の開発に取り組んでいます。もう1つのテーマは、保健・医療・福祉専門職による理想的なチーム・ケアのあり方や人材育成法を考えていくものです。近年、当たり前の

ように語られる「チーム医療」ですが、その具現化がいかに困難を伴うものなのかを実感しています。

学部での学習が一つの通過点であるのと同様に、大学院もまた、ある目的のためのステップだと思えます。将来の目標を達成するために、知識、思考、仲間とのつながりを蓄え、思考を拡大しながら確実にステップアップしていく場所が大学院なのです。学部を卒業してから社会人としての悩みや課題、問題を抱える人こそ、大学院で語り合う資格があると思います。



# 首都大学東京を 支えるセンター・機関

- 128 大学教育センター
- 130 国際センター
- 132 オープンユニバーシティ
- 134 戦略研究センター
- 135 産学公連携センター
- 136 都市科学連携機構

# 大学教育センター

首都大学東京のアイデンティティとなるオリジナルの教育プログラムをプロデュース

## 大学教育センターの役割

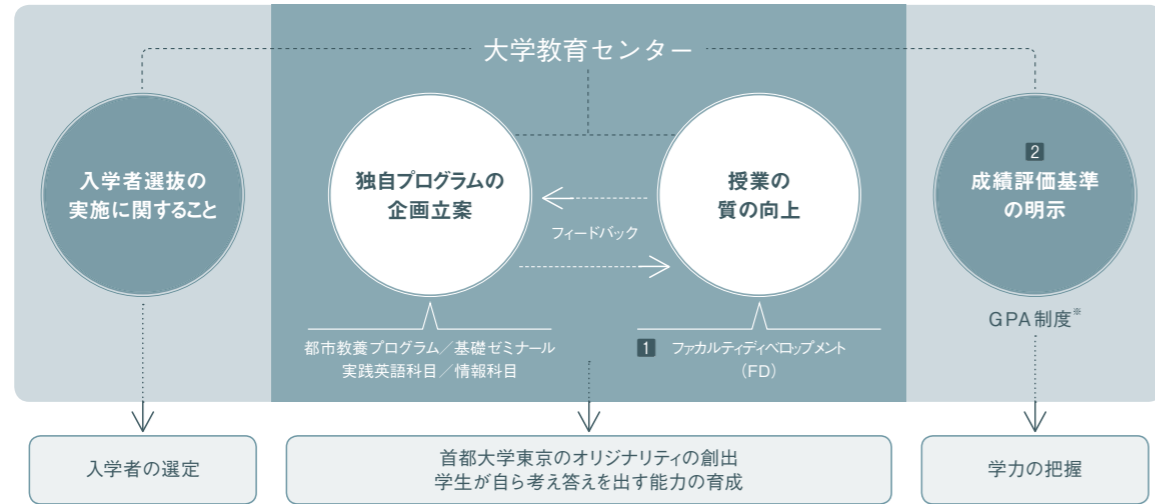
自ら考え、答えの出せる力を見出す独自プログラムを企画立案

当センターは、学生が自ら考える力を育成することを目指しています。初めから知識や結論だけを教え込むような逐条型の教育ではなく、自分で考え、自分で答えを出すことのできる能力を培う教育を展開していきます。そのことを踏まえて、本学独自の「都市教養プログラム」「基礎ゼミナール」「実践英語科目」「情報科目」など、各授業科目の教育内容の企画・調整を行っています。また、履修科目の選択に際しては、学生にとってより利用しやすい「履修の手引」や授業案内(シラバス)の編さんを行っています。さらに、学生と教員にとっての最適な学習環境作りにも取り組んでいます。

魅力ある独自プログラムの質を向上するために授業の満足度を確保

独自プログラムの学生評価の確認も兼ねて、全学規模で授業の満足度を調査するアンケートを実施して教育方法を改善していくファカルティ・ディベロップメント(FD)に取り組んでいます。企画立案したプログラムをそのまま続けるだけでなく、評価を確認することで「授業の質の向上」という成果を上げています。現在、当センターでは、厳格な成績評価の実施を目指し、学部単位の枠組みを超えた活動を積極的に行っています。なお、学生の成績評価方法のひとつである GPA 制度については、複数の学部で導入されています。

## 大学教育センターの活動



### 1 ファカルティディベロップメント(FD)

大学教育の成果を上げるためには、必要な数の教員が存在し、教育支援体制や教育環境が整っているだけでなく、授業をはじめとする教育の改善に向けた不断の取り組みが必要です。そのような、教育の質の向上を図るための、教育理念・教育目標や教育内容・方法について組織的な研究・研修を実施する大学の取り組みを「ファカルティディベロップメント(FD)」といい、本学では、全学または学部などの単位で積極的に取り組んでいます。

### 2 成績評価基準の明示

大学の社会的責任として、学生の卒業時における質の確保を図るためには、各授業科目の学習目標や計画とともに、シラバス等において成績評価の基準を明示し、その基準に基づいた客観的な成績評価を行うことが重要です。本学では全学共通の基礎・教養教育プログラムをはじめ、各学部でも、成績評価基準の明確化に取り組んでいます。

※ [参考] GPA 制度とは — アメリカにおいて一般的に行われている学生の成績評価方法の一種です。

アメリカにおける一般的な取り扱いとは以下のとおりです。

- 学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を5段階(A, B, C, D, E)で評価し、それぞれに対して4, 3, 2, 1, 0のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA、グレード・ポイント・アベレージ)を出す。
- 単位修得はDでも可能であるが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要とされる。
- 3セメスター(1年半)連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされる(ただし、これは突然勧告がなされるのではなく、学部長等から学習指導・生活指導を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる)。

学生の考える力、人間力を高めるために学びの内容とシステムの充実化を図る。

大学教育センター長 山下 英明 教授

上智大学理工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了。東北大学教授、東京都立大学教授等を経て、2011年より現職。工学博士。



本学の大学教育センターは「基礎教育」「入試」「大学評価」という3つの機能を有し、全学的な教育を統括する司令本部的な存在です。特に、都市教養プログラムに代表される基礎教育の充実には力を注ぎ、専門教育との有機的な連携によって、大学の目標である「大都市における人間社会の理想像の追求」を実現できるアビリティを身につけた人材の育成に貢献しています。

また、本センターでは学生の自ら「考える力」を養うため、カリキュ

ラム内容の充実を図るだけでなく、都市教養プログラムでは敢えて学習モデルを提示せず、学生が科目選択の段階から自分で考えて系統的なカリキュラムを組み立てられるようにしています。さらに、学生に授業評価アンケートを実施し、その結果をすべて教員にフィードバックすることで、より質の高い授業の提供を目指しています。このような環境をフル活用して、学生の皆さんには考える力、自己開発力、そして“人間力”を磨いて欲しいと願っています。



## 教員の専門分野・研究分野の紹介

山下 英明 教授 (大学教育センター長)  
オペレーションズ・リサーチ、待ち行列理論とその応用

上野 淳 教授 (副学長)  
建築計画学、環境心理学、環境行動学

岡 良一 教授  
ドイツ語、ドイツ文学。トーマス・マンとハインリッヒ・マンの研究

岡崎 一 教授  
英米ユートピア文学・思想、英学史、比較文学

大森 不二雄 教授  
高等教育、教育政策、教育社会学

立花 宏 教授  
光化学プロセスの現象解明、情報教育

永井 正洋 教授  
教育工学、情報教育

行方 均 教授  
アメリカ文学(黒人文学)・文化

福島 富士男 教授  
アフリカの現代文学(英語)、民話、口承文芸の研究

舩本 直文 教授  
スポーツ文化学・スポーツ映像文化解釈学(スポーツ映像メディアの解釈など)・オリンピック研究・大学体育システム開発

亀澤 美由紀 准教授  
19世紀イギリス文学・文化

神田 明延 准教授  
語学教育のe-ラーニング

北澤 武 准教授  
教育工学、情報教育、情報分析

越 朋彦 准教授  
17世紀イギリス文学、初期近代手稿文化、イギリス大衆紙

高岸 冬詩 准教授  
20世紀イギリス・アイルランド詩

辻 秀雄 准教授  
アメリカ文学(現代散文)

林 祐司 准教授  
社会政策論、労働経済論、キャリア形成論

原田 なをみ 准教授  
理論言語学(生成文法) 比較統語論

藤井 誠 准教授  
英語教育・英語学

本間 猛 准教授  
理論言語学

安井 マイケル 准教授  
実践的英語教育

湯浅 良子 准教授  
英米文学、英語学

吉田 朋正 准教授  
アメリカ文学、批評史

ロバート・ブロック 准教授  
実践的英語教育

笹川 渉 助教  
イギリス文学(16・17世紀イギリス詩)、図像学

渡辺 雄貴 助教  
教育工学、インスタラショナルデザイン

# 国際センター

異文化理解の観点から学際的研究に取り組み、  
世界に発信する大学として、グローバルな現代社会の課題に挑む

## 国際センターの役割

国際センターは、大学の国際交流に関する企画立案や、大学における国際交流活動を支援することにより、首都大学東京の教育研究の国際化及び国際交流の推進を行っています。具体的には、外国大学等との交流推進や協定締結、研究者の国際交流の推進、国際交流会館の管理運営、外国人留学生及び外国留学の支援、国際教育プログラムの構築などに取り組んでいます。



## 国際学術交流協定

首都大学東京では、教育研究交流や、学生交流を目的として、外国の大学または研究機関と協定を締結しています。  
協定締結数(平成23年2月現在) 全学協定: 27件、部局間協定 39件



若者よ、海を越えよう！  
学生時代の海外体験は  
一生の財産となるはず。

国際センター長 青村 茂

学生のうちに外国で生活する、異文化に触れる、そんな体験をすることで自分の世界は一気に広がります。最近では取得単位や語学力の問題、帰国後の就職活動への不安などが原因で留学を志す大学生が減少していると聞きます。確かに学生時代の4年間は忙しく、アツという間に時間が過ぎてしまいます。しかし、学生にとって海外体験をすることのメリットは計りしれません。  
本学では「国際化の推進」を学長を中心に精力的に進めています。

その拠点となるのが国際センターであり、多くの学生や研究者を海外に送り出し、また諸外国からの多くの学生や訪問・滞在研究者を積極的に受け入れています。国際センターでは、海外大学との協定締結による単位互換制度や英語教育の充実など、さまざまな取り組みを実施することで、学生諸君が安心して海外留学にチャレンジできる環境づくりに尽力しています。

## 国際交流会館

南大沢キャンパスの国際交流会館には、国際会議場、セミナー室、海外からの研究者と本学の大学院に在籍する留学生のための宿泊室及び研究室があります。各種の国際会議が開催され、長期・短期滞在者たちとの交流の拠点となっています。また、海外留学を希望する学生のための資料コーナーや相談室もあります。



## 遠隔教育による海外の大学との交流

国際センターの留学生交流室には、テレビ会議システムとマルチメディア素材の開発と利用の機器が備わっています。これらは、学内の留学生が利用するほか、海外の大学との教育と研究の交流にも使われています。これまで、大連理工大学(中国)、台北市立教育大学・輔仁大学(台湾)、インドネシア教育大学(インドネシア)、ウィリントン大学(インド)に日本語の授業を配信したり、美術のセミナーを受信したりしてきました。また、オーストラリアのエディス・コーワン大学との間では、学生同士の英語と日本語によるチャットも実施しています。



インドネシア教育大学への配信



本学でテレビ会議システムを使用している様子











# オープンユニバーシティ

## 東京都の生涯学習の中心拠点として社会に開かれたもう一つの大学の形

### オープンユニバーシティの役割

首都大学東京は、都民や社会人の学習ニーズに応える生涯学習の拠点として、さらには地域社会の活性化を目指して、大学のもつ学術研究の成果を広く社会に還元する「オープンユニバーシティ」を開設しています。平成17年の開講より幅広い年齢層から多数の都民の方々に聴講いただき高い評価を得ています。講座内容は、東京都及び都の関係機関との連携講座など他大学では見られない魅力的な内容を揃え、各分野の第一線で活躍する本学教員をはじめ、広く学外の著名人や専門家による特色ある講座を開講しています。

**一般講座** (平成22年度参考) | 首都大学東京の教授陣を中心に最新の教育研究内容をわかりやすく解説する講座です。受けたい講座を探しやすくするために、同じような性質の講座を集めて10のジャンルに分けています。

ジャンル	内容	講座名
 <b>こころ</b>	「哲学」や「心理学」「コミュニケーション」など「意識の内側」に関わる内容です。	時間とタイムマシンの哲学、心理学を楽しむ など
 <b>からだ・健康</b>	元気で長生きするために具体的にどんなことを実践すべきかを研究する講座です。	食育の基礎を学ぶ、初めてのピラティス&ヨガ など
 <b>スポーツ</b>	活気に満ちた楽しい生活を送る上で欠かせない知識と実技を、実際に体を動かしながら学べる講座です。	初級スイミング、楽しいテニス教室 初級編、入門ゴルフ など
 <b>経済・ビジネス</b>	会計・経営の基礎やビジネスで使える戦略的知識まで、財務・経営の知識を中心に展開します。	会計情報の見方・読み方(基礎編)、ワンデー MBAマーケティング など
 <b>社会</b>	現代社会をとりまく高齢化・国際化など社会経済の問題から、外国の文化など、幅広く扱う講座です。	「持続可能な社会」について考える、孫子の兵法(基礎講座) など
 <b>科学・技術</b>	パソコンの操作から、物理化学の概念まで、周りの身近なものから果ては宇宙に至るまでの現象を、科学的に解説します。	アインシュタイン理論と宇宙の進化、現代数学への招待 など
 <b>ことば</b>	映画などで身近に触れられる外国語から、外国語の会話の習得まで、言葉 を学ぶ講座です。	ビジネス英語会話、使ってみよう! 韓国語「初級」 など
 <b>歴史</b>	時空を超えた過去との対話の中から、これから私たち人間は、どこへ行くこう としているのかを考察する講座です。	江戸文化再見シリーズ(円山応挙)、日本武将政治能力対比分析 など
 <b>芸術</b>	「想像」と「創造」の産物、人間の叡智が結集された所産を鑑賞したり、創作する喜びを実感する講座です。	イタリアの美術、南画(南宗画)を描こう など
 <b>文学・古典</b>	幾世紀にもわたって読み継がれ、人々に愛と勇気と感動を与えてきた作品を味わい、人生を豊かにする講座です。	日本神話と昔話・伝説の世界、怪異と怪談の文化誌 など

**連携講座** (平成22年度参考) | 東京都及び各種団体等との連携・共催により、歴史、美術、音楽、環境、医学、都市、交通・労働・雇用など魅力ある講座を多面的に提供しています。

講座名	連携・共催機関
環境学習講座	東京都環境局
江戸・東京の都市形成と発展の歴史	東京都公文書館、公益財団法人特別区協議会
労働セミナー(時事的課題セミナー)	東京都労働相談情報センター
「漢方薬の魅力」	東京都健康安全研究センター・東京都薬用植物園
苦情対応セミナー	公益財団法人特別区協議会、NKSJ リスクマネジメント株式会社
市民のための自治入門セミナー	公益財団法人特別区協議会
隅田川の橋めぐり ―― 橋の構造と歴史 ――	公益財団法人東京都公園協会
都市江戸東京の歴史と文化	公益財団法人東京都歴史文化財団・東京都江戸東京博物館
一級建築士試験対策講座	社団法人全日本建築士会
東京シティガイド検定受験対策講座	財団法人東京都観光財団
地域と産業考古学	財団法人東京都スポーツ文化事業団・東京都埋蔵文化財センター
～伝統芸能シリーズ～ 歌舞伎をたのしみましょう	独立行政法人日本芸術文化振興会・国立劇場
～伝統芸能シリーズ～ 「能への誘い」	独立行政法人日本芸術文化振興会・国立能楽堂
～街物語シリーズ～ 「東京再発見」 ―― 隅田川と江戸の街 ――	NPO法人東京シティガイドクラブ

### 教員の専門分野・研究分野の紹介

## 人文系

**猪股 ときわ** 教授  
日本古代の神話、儀礼、歌、物語、宮廷文化の研究

**小川 定義** 教授  
言語理論、生成文法、フランス語統語論、ロマンス語比較統語論、上代日本語

**辻 麻子** 教授  
18世紀イギリス詩、イギリスとイタリアとの文学上の相互関係、イタリアの都市文化

**前田 庸介** 教授  
西洋近代社会思想史

**千代島 雅** 准教授  
西洋近代哲学(ヘーゲル、ニーチェ、フッサール、ハイデッガー)、時間論(流れ、方向、タイムマシン)、科学論(相対性理論等)、地球温暖化論、生態系論、論理学(パラドックス)

**中村 英男** 准教授  
19世紀イギリス小説

**保阪 靖人** 准教授  
現代ドイツ語学。生成文法理論から見たドイツ語の統語構造研究

**源川 真希** 准教授  
日本近現代史

**山際 勇一郎** 准教授  
人間関係の実証的研究

## 経営会計

**相山 長和** 教授  
数理在庫管理論、Computer Architecture、Job Shop

**小泉 徹** 教授  
流通・マーケティング

**高橋 治彦** 教授  
財務会計

**戸崎 純** 教授  
世界経済論  
**松下 優** 教授  
化学工業における環境マネジメント、コーポレート・ガバナンス

**米山 秀** 教授  
近世イギリスにおける市場経済の成立

**小松 美枝** 准教授  
経営戦略論、経営環境論

**淵江 哲郎** 准教授  
経営財務論

**横山 佳代子** 准教授  
企業の戦略的ネットワークに関する研究

## 身体健康栄養

**今中 國泰** 教授  
知覚・認知と運動における無意味的・潜在的過程

### 教授インタビュー



博士(医学)。金沢大学大学院教育学研究科修了。東京都立大学助手、助教授、首都大学東京准教授を経て、2008年より現職。

人間健康科学研究科  
ヘルスプロモーションサイエンス学域 **北 一郎** 教授



## 「こころの健康」について脳科学の領域から科学的に分かりやすく伝えていく。

ヒトをはじめとする生物の行動は、脳内の多種多様な神経システムが複雑に相互作用することで調節されています。それに対して行動や環境によって脳もまた変化します。このことは経験的には感じていてもその証拠はまだまだ不十分であり、未解明の部分が多く残されています。そこで、私の研究室では生物の行動に関わる情動、覚醒、ストレス、自律機能に焦点を当てて、脳神経科学の観点からその調節機構を解明し、運動や環境などを利用した適切な刺激によって脳の活性化やリラクゼーションをコントロールし、いわゆる「こころの健康」、そしてこころの状態と密接に関わる「健やかなからだ」の維持・増進に貢献できるような研究を進めています。

脳科学の話題は最近、メディアでも頻繁に取り上げられていますが、不確かな知識や興味本位のエピソードが目立ちます。オープンユニバーシティでは都民や社会人の学習ニーズに応えることを目的としているため、あくまで大学レベルを意識した内容を心がけています。スポーツに関するテーマならどうしたら上達するか、からだにどんな影響があるかなどを科学的な背景も交えて、かつ分かりやすく伝えていきます。また、オープンユニバーシティは大学のイメージアップや研究内容のPRにも有効ですし、何より地域貢献にもつながるので、全学的な教員スタッフの協力体制のもとで、より多彩なプログラムを提供できるように取り組んでいくつもりです。

# 戦略研究センター

学内外の研究者と連携しながら  
最先端の研究を実施する

## 戦略研究センターの役割

本学は、長期的視点に立って大学の強みとして伸ばすことができる特定の研究領域を選定し、重点的・戦略的研究を推進しています。その核が戦略研究センターです。本センターでは、センター長である学長の下で、学内外の研究者との幅広い連携を行いながら、本学が志向する重点的・戦略的な研究や外部資金を活用した重要な課題について最先端の分野の研究を実施しています。それぞれの研究分野の先端研究者で構成される組織です。

## 戦略研究センターの特長

長期的視点に立って強みを伸ばす研究領域を選定学内から提案された中から、学長が、学術の動向や社会的な課題等を踏まえるとともに、既存の研究領域との連携・融合による相乗効果にも考慮して、本学の目指すべき方向を見据え、研究領域を選定しています。戦略研究センターの研究者は、選定された研究領域について、重点的、集中的に研究を行う研究者として選ばれた研究者です。また、戦略研究センターの研究者のうち、年齢45歳以下の研究者については、スタートアップ研究費を措置し、優秀な若手研究者の研究のスタートアップを支援しています。



## 選定された研究領域と教員

研究領域 (6 領域)		教員 (7名)
メゾスコピック領域	構造生物化学(タンパク質)分野	甲斐荘 正恒 特任教授 岡田 聖裕 准教授
脳科学領域	ショウジョウバエを用いた脳科学分野	堀内 純二郎 准教授
建築学領域	建築学	青木 茂 教授
都市生活環境先端計測分析学領域		松本 淳 准教授
経営学領域	リアルオプション	中岡 英隆 教授
光エネルギーと物質変換領域		井上 晴夫 教授

## 戦略研究センターシンポジウム

戦略研究センターの活動内容を広く学内に紹介するため「戦略研究センターシンポジウム」を開催しています。本学の教職員及び学生・ポストドク等を対象に、専門外の方にも分かりやすく研究分野を紹介し、ポスターセッションでは専門的な議論も行っています。学内研究者の交流の場として、教育研究の新たな展開へとつながることを期待し開催するものです。

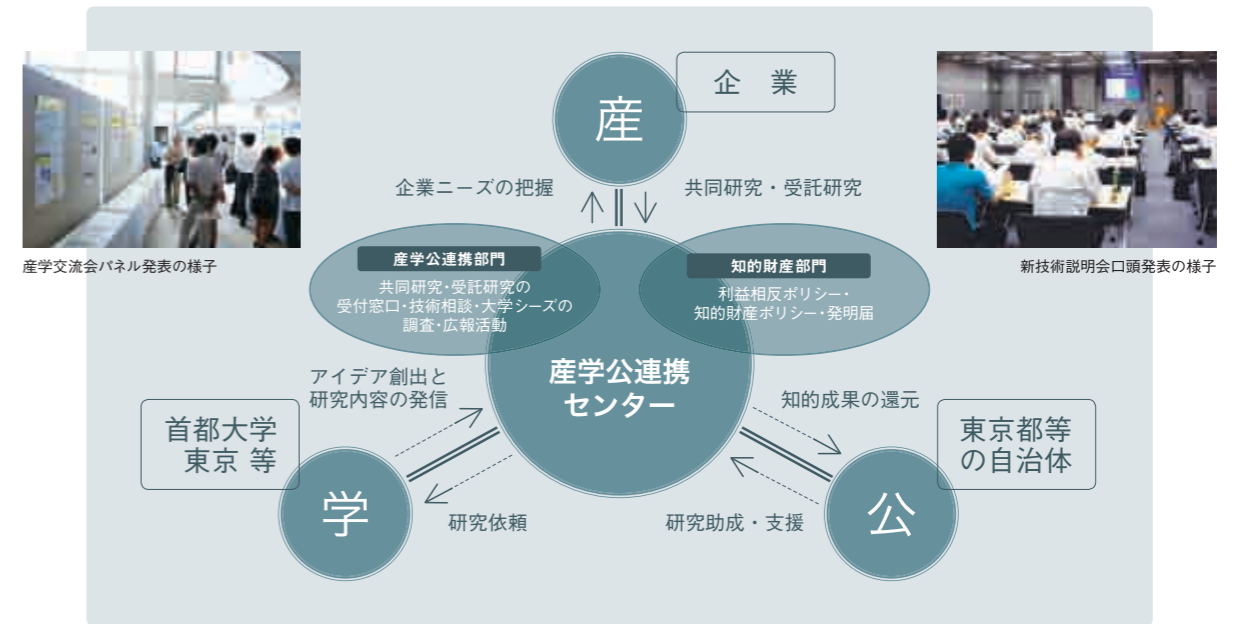


# 産学公連携センター

都市を活かす新しい産業の架け橋

産学公連携センターは、大学の学術研究成果を広く社会に還元し、産業界や公的研究機関との連携によって、独創的な技術や製品の開発に寄与するなど、産学公の連携を通じた新産業や雇用創出による社会貢献を目的に設立されました。具体的には、産・学・公の連携を進めるコーディネータによる共同研究・受託研究・技術相談などの受付、研究成果のご紹介、各種展示会・セミナーを行い、社会貢献へのきっかけとなるべく活動を進めています。学生の皆さんは大学及び大学院において、共同研究など実務的な研究に身近に接することで、自分たちの研究が将来どのような形で社会で活用されていくのかを知る実学の間となります。

## 産学公連携センターの活動



## 共同研究・受託研究の推進

本学教員の研究成果（シーズ）をデータベース化するとともに、企業ニーズの把握に努め、シーズとニーズのマッチングを図ります。また、試験研究機関や他大学、企業とのネットワーク網を構築しています。

## 技術相談

企業が直面する技術的問題に大学の資源や独自のネットワーク網を活用して相談に応えます。さらには必要に応じて教員及び関係機関（都立産業技術研究センターなど）の紹介を行います。

## 産学公交流の推進

技術革新が急速に展開していく中で、企業が時代に取り残されずに社会の変化にスムーズに対応できるよう、セミナーやシンポジウム、展示会、イベントを通じ、様々な情報を発信しています。

## 関係機関との情報交流

試験研究機関や他大学などの関係機関と連携を深めると同時に、企業が求めるニーズ情報を積極的に収集するなど、活発な情報交流を進めます。さらに企業に向けて、新しい提案を行っていきます。

## 広報活動

本学の研究成果を広く知ってもらうために、各種イベントへの参加などのPR活動を積極的にを行っています。幅広い広報活動を通じて、自治体、企業などとの新しい出会いの場を創出しています。

## 知的財産の管理・活用

研究成果を広く社会に還元するために、知的財産を有効・適切に管理します。また、知的財産の創成や権利化、活用を積極的に推進するとともに、新たな産業の創出に向けての取り組みを行っています。

## 平成22年度に開催されたセミナー・発表会(一例)

- 研究シーズ発表会 2010
- 「南大沢キャンパス産学公交流会2010」
- 秋葉原サテライトセミナー
- 「首都大学東京 新技術説明会」
- 平成22年度東京都科学技術週間特別行事



〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 プロジェクト 研究棟1F・2F TEL. 042-677-2729 FAX. 042-677-5640  
HP. <http://www.tokyo-sangaku.jp/> e-mail. [soudanml@cc.tmit.ac.jp](mailto:soudanml@cc.tmit.ac.jp)

## 都市科学連携機構

高度化・多様化する行政ニーズに対応し、  
提言を行う総合窓口



都市科学連携機構は、東京都が設置した公立大学の強みを活かし、都庁の行政組織及び各種研究機関との強固な連携を通じて、東京都のさまざまな行政施策をリードできるような提言を積極的に行うための機関です。

「都市科学連携機構」では、行政ニーズに応えるために、施策プロジェクトの内容に応じて、学部・研究科の枠を超えてプロジェクトを支援・推進する分野横断型の総合窓口を設置しております。全学から招集した専門家による研究チームの英知を集結して都市型の問題解決に取り組み、行政機関との連携を通じて社会に広く還元し社会貢献に努めると同時に、教育機関としての機能を一層高度化することを目指しています。

### その他のセンターについて

#### 学生サポートセンター

奨学金や健康、課外活動、就職、心理相談まで、学生生活を安心して過ごすことができるように、あらゆる角度からサポートします。

詳しくは **p.138** の【サポート】学生サポートをご覧ください。



#### 図書情報センター

3キャンパスをネットで結び、学術情報のアクセス拠点となっています。キャンパス間の相互利用や東京都民への図書館開放なども行っております。

詳しくは **p.152** の【キャンパスライフ】図書情報センターをご覧ください。



南大沢キャンパス図書館



荒川キャンパス図書館



日野キャンパス図書館

## 学校情報

School information

### サポート

- 138 学生サポート  
奨学金制度・減免制度
- 140 就職活動支援
- 142 就職先一覧／卒業生のコメント
- 144 留學制度

### キャンパスライフ

- 146 キャンパスカレンダー（学校行事）
- 148 クラブ・サークル活動
- 150 学生寮（寄宿舎・桜都寮）
- 152 図書情報センター
- 154 南大沢キャンパス
- 158 日野キャンパス
- 160 荒川キャンパス
- 162 学外施設／問い合わせ先一覧
- 163 その他キャンパス

### 入試情報

- 165 入試カレンダー
- 166 一般選抜・受験科目一覧
- 168 一般選抜・入学試験実施状況
- 169 多様な選抜実施状況
- 171 入試について Q & A

### 資料請求

- 172 各要項の請求方法